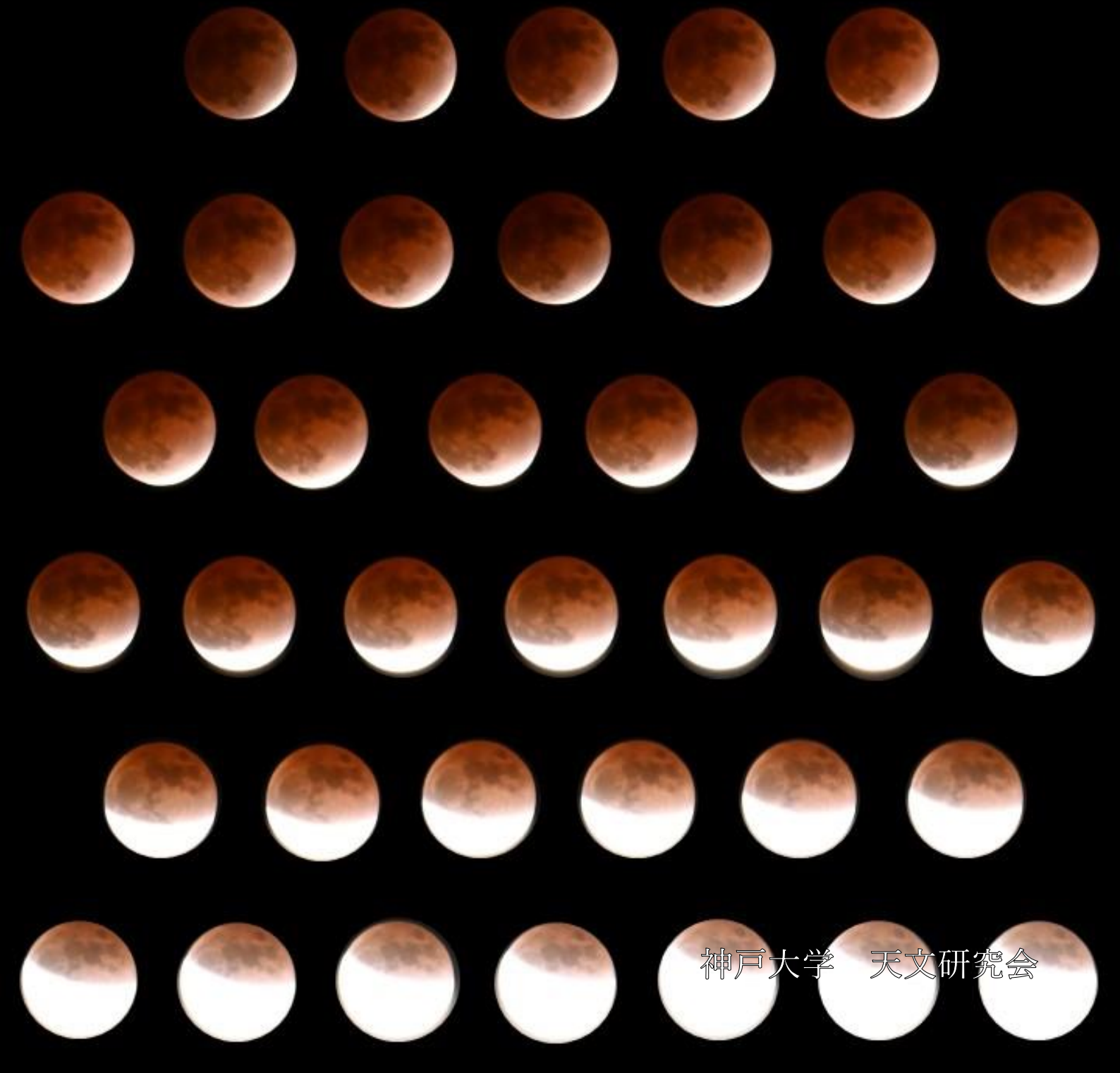
月刊

嶺上新星

2021 年 12 月号



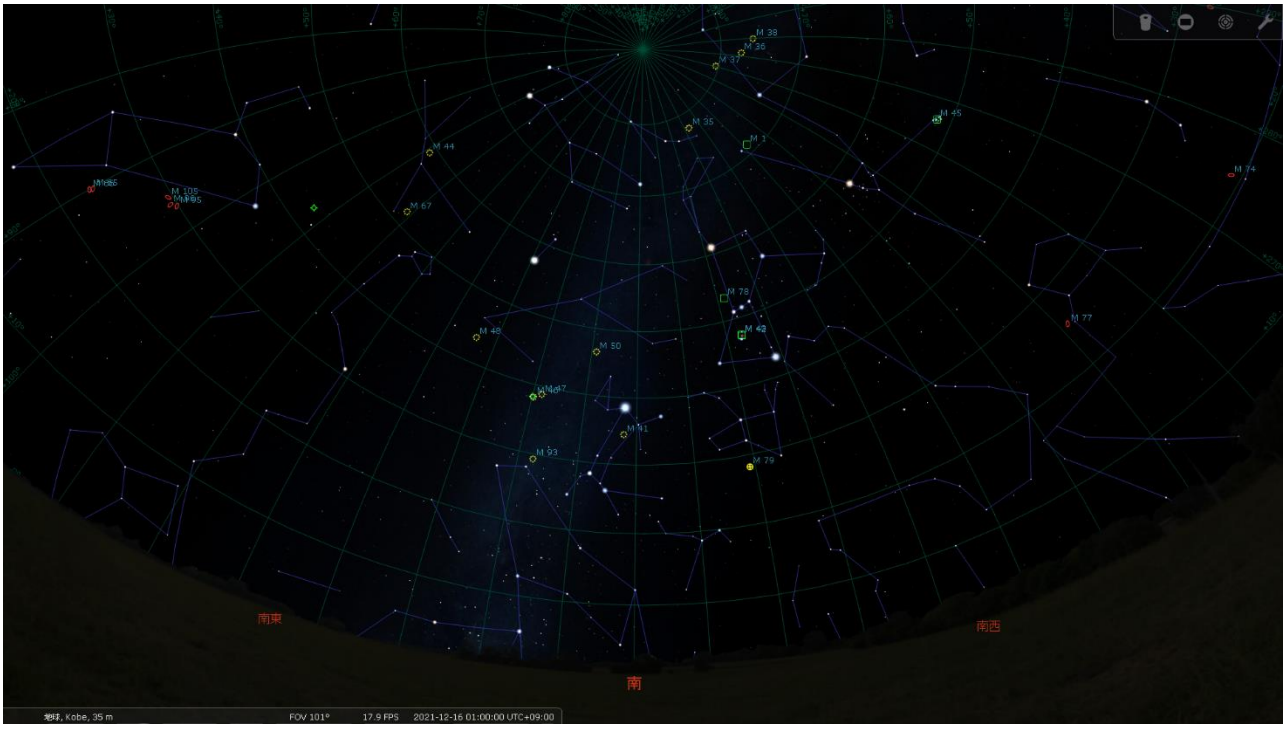
神戸大学　天文研究会

表紙：53 期生　サブロー
Nikon D780 / VR 70-300mm f/4.5-5.6E
f6.3　1/13 秒　ISO6400　2 分毎に撮影しトリミング・合成

星空情報

‘21 年総観の紹介する星空情報はこれで最後。今までありがとうございました！

▼2021 年 12 月 16 日　午前 1 時頃の星空



総観のおすすメシエ

- M35

  AREA No. 43 / 散開星団

  ◆　ふたご座のカストルの足にある散開星団。

  ◆　主鏡視野いっぱいに広がる様は圧巻の一言。導入も結構簡単なので是非見て頂きたい。

- M46, M47

  AREA No. 49 / 散開星団

  ◆　いっかくじゅう座の足元に 2 つ並んだ散開星団。

  ◆　M46 はきめ細かく、M47 は大粒。対照的で好みが分かれやすい。私は M46 派

- M93

  AREA No. 49 / 散開星団

  ◆　南の低い所にある散開星団。

  ◆　とも座ってどこだよ、となってパスしがち。すぐ沈むので忘れず見ておこう。

今月のひとくち星座解説♡

今月の星座は…おうし座

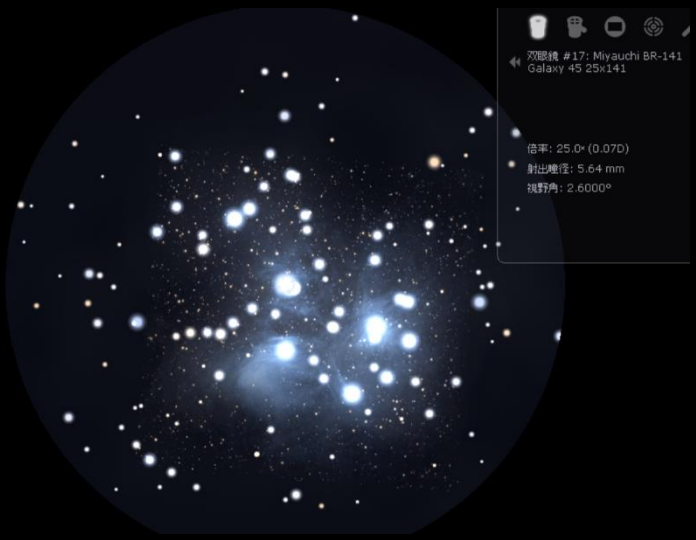
※12 月中旬の夜 12 時に南中する星座を選んでいます。

こちら、12 月中旬真夜中の南の空。冬の夜空は本当にきらきらと賑やかですよね。
今月は私の誕生星座、おうし座を取りあげます。
冬の天の川は、このおうし座のすぐとなりのぎょしゃ座あたりから始まり、おうし、ふたご、オリオン、こいぬ、おおいぬの間を流れています。ぜひ観測に行った時に確認してみてください。

おうし座は、星座の中でも納得のできる形をしている方の星座だと思います。秋頃から見え始め、春のはじめにはもういなくなっている星座ですが、星座の中で一番目立っているのはやはりすばるでしょうか。

私はよく、冬の夜空ですばるの星が何個見えるか数えます。自宅前は光害がやはり強く、5 個見えればよい方です。観測地では 6~7 個見える気がしています、多分心眼です。さて、今回はすばるの話を少し。

―「消えたプレヤード」のおはなし―



すばるは、別名ムツラボシ(六連星)と呼ばれる通り、肉眼では六つの星が見えます。しかし、地方によってはナナツボシとも呼んでいます。これは漫然と七つと言ったまでで、外国でもその例は珍しくないみたいです。

また、中国では昴七星と呼ばれているし、「丹後風土記」で、龍宮で浦島を迎える昴星の童子が 7 人であるのも明らかにすばるのことでしょう。

ギリシャ神話では、すばるはプレヤーデス神話として出てきます。これは、すばるの七姉妹で、ヘシオドスは著書『アストロノミア』の中で、マイア、アステロペー、メロペー、エレクトラ、タイゲタ、ケレーノー、アルキオネーと名前を記しています。

神話の中でこの姉妹は、月の女神アルテーミスの侍女でしたが、月夜に森の中で踊っていた時、猟師オリオーンが現れて戯れたので、あるじの女神に助けを乞いて鳩に変えてもらい、さらに空へ昇って七つの星の群となったと言われています。

しかし、後にエレクトラは、その子ダルダノスの建てたトローヤの城市が炎上するのを見るに堪えず、彗星となって姿を消しました。それ以来、残った六人の姉妹はエレクトラを慕って泣きぬれているので、星団が青白くぼやけているのだと。

この消えたという星を、神話学者は「消えたプレヤード」と呼んでいます。これに似た神話伝説は諸民族からも見出されています。

天文学者はこの話から、すばるがかつて七つ見えていたものの、その一つが姿を消した事実を伝えているのではないかと考えました。バビロニアの彫刻のカッカブ・カッカブ(群れ星、すばる)は、はっきり七つに刻まれています。

けれども、これもバビロニアで七の数を完全の象徴と考えていたからで、実際の数とは関係がなく、それがギリシャに伝わってプレヤーデスを七姉妹と見、しかも実際には六つしか見えないので、エレクトラ伝説が付会されたのだ、とする説や、一時出現した新星が消えて六つとなり、この伝説を生んだものか、とする説などが生まれました。

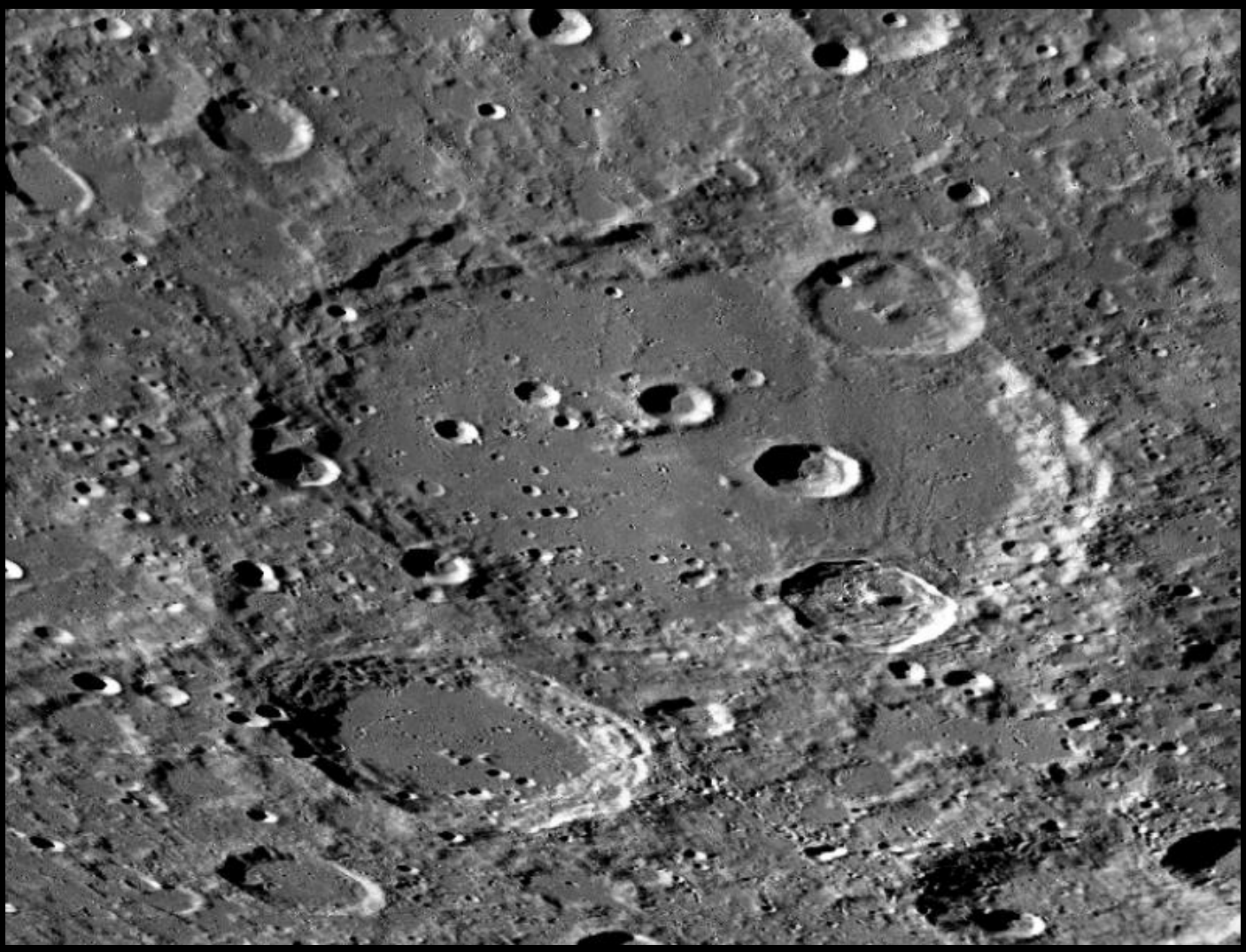
いずれも憶測ですが、実際のところどうなんでしょうね。まあ望遠鏡で見れば 100~200 個見えるのでアレなんですけど。

文責　野間光葉

日付	2021 年 12 月上旬
天候	晴れ
場所	北緯 35 度　東経 135 度
文責	谷口紘大
メモ	今回は月食や日食について紹介していこうと思う。ニュースでも大きく取り上げられることが多いので皆さんも見たことがあるかもしれない。一番最近では、今年の 11 月 19 日の夕方頃に部分月食があったことが記憶に新しい。まずは月食について話していこうと思う。月は太陽の光を反射して輝く天体であり地球の周りを回っているため、太陽、地球、月の順番にほぼ一直線上に並んだときに地球の影に入り月が欠けて見える現象である。月このときに月は全く見えるようになるのではなく太陽の光の内、赤の光だけが地球の大気によってあまり散乱されず（つまり屈折率が他の光と比べて小さい）に月の表面に届くので赤銅色と呼ばれる赤黒い色に見える。月食は満月の時にしか起こらないが、地球と月の公転軌道がそれぞれ約 5 度傾いているために実は一直線上に並ぶことは滅多に無いためにいつも満月の時に月食を起こすことはないのである。 では次に、日食についてである。晴れた昼間に輝く太陽は丸い形をしているが、丸いはずの太陽が部分的に欠けていたり太陽全体が見えなくなったりすることがある。これが日食という現象である。日食は月食と少し違って太陽、月、地球の順番にほぼ一直線上に並んだときに月の影となった地球上の限られた場所で太陽の一部または全てが月によって隠され、太陽の光が届かなくなるのである。太陽の直径は月の直径よりも約 400 倍大きいが月が太陽よりも地球から約 400 培近いため（実際には月や地球の公転軌道は楕円軌道であるため距離の変動はある。）月と太陽は大体同じくらいの大きさに見えるので月は太陽のほとんどを隠すことができるのである。それが皆既日食や金環日食である。 次に日本で見える月食や日食について、国立天文台によるとまず 2022 年 11 月 8 日に皆既月食を見ることができる。（今の 1，2 回生はまだこのとき天研民！）2023 年 4 月 20 に一部地域で部分日食、2030 年 6 月 1 日に日本全国で部分日食を見ることができ、北海道では金環日食が見えると言われている。ぜひ貴重な 天文イベントを自分の目で見てみよう！太陽を見るときは気をつけやー

太陽の探検隊
太陽を追いかけよう

ATLAS THE MOON -Last-



-Introduction-

師走です。みなさんお忙しい年末を過ごされているのでしょうか。私は少なくとも忙しいです。どうしてこんなに忙しいのだろうかと考えてみるとすべて自分のせいなのですが…。ナポレオンの、「お前がいつの日か出会う禍は、お前がおろそかにしたある時間の報いだ」という言葉が刺さりまくっています…。

さて、この連載も今回が最後になります。思えば 4 月から、よくここまで続いたなと感慨深くなったりしています…。どれだけの人が読んでくれていたのかわかりませんが、これで最後です、ありがとうございました！

今月は、私が一番好き…というか興味がある…というかまあ素敵な…そして謎多きクレーター、クラヴィウスクレーターについて、少しだけ掘ってみようと思います。上の画像は、またまた LRO の画像です、また URL 載せますね。この前、学科の先生とこのサイトについてめちゃ盛り上がったのを思い出します…。

無駄話はさておき、やっていきましょう。この画像でどれがクラヴィウスクレーターなん？って思っている人はいないと思います。真ん中のでかいやつです。まずはよく見てみてください。どんな特徴がありますか…？

ATLAS THE MOON

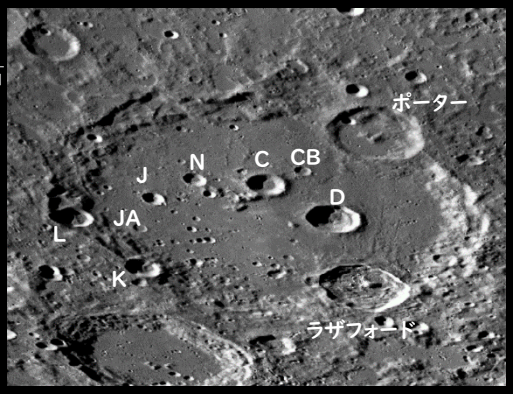
WHERE TO LOOK FOR THIS MONTH?

-What are we introducing this time…?-

まず、このクレーターが月のどのあたりにあるのかということから。

左の画像の赤丸の部分です。月の表側にあります。割と日が当たりそうなところにありますよね。大きさとしては四国がすっぽり入るくらいです。表側最大級のクレーターなんですねえ。月をよく観望している方なんかは、よくこのクレーターを見ていらっしゃるイメージがあります。なぜかというと、このクレーターが素敵なのもありますが、小型望遠鏡の解像力をテストするのにつかわれることがあるからかしら、と思っています。

右の写真を見てください。



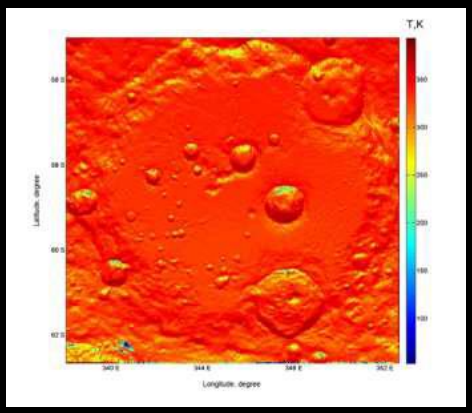
クラヴィウスクレーターは、右上にポーター、左下にラザフォードというクレーターがあります。

このラザフォードから、三日月状に小さいクレーターが並んでいるのがわかりますか？これらは、クラヴィウス D、C、N、J、JA と名付けられています。また、その順に小さくなっていますよね。これがどこまで見えるかで、望遠鏡の解像度がわかるのです。ちなみにこの話は以前の嶺上新星でもした気がします。MAK127 では、N まで見えている気がします。

また、これだけ小さなクレーターが多いことからも、クラヴィウスクレーターが古いクレーターであることがわかりますよね。リムが滑らかになっていることも、古いクレーターの証拠です。

クラヴィウスクレーターが謎の多いクレーターである、というのは、この三日月状に並んだクレーターがどのようにできたのか、ということが一点。

さらに、もう一点は、ここで水分子が発見されたことです。これは最近の話ですが、SOFIA 望遠鏡が 2018 年に赤外線観測によりこのクレーターから水分子を検出しました。こんなに日が照っている場所なのに、地表に水分子？と未だにいろいろ議論されている謎です。



Ckavius Crater Water　Pugacheva et,. Al(2021)

左の図は、クラヴィウスクレーター周辺の最大温度の図です。日中はこのクレーターは 300~350K に達しているので、水分子が残っていることが奇妙なのです。結論はまだ出ていません。

月にはまだまだ奇妙なことが残っているので、私は将来的に月の研究者になりたいなと思っています。

-Conclusion-

今までいろんなクレーターを紹介してきましたが、このクレーターが一番見栄えいいでしょ？？？

-References-

- http://quickmap.lroc.asu.edu/　LRO quick map
- https://ui.adsabs.harvard.edu/abs/2021LPI....52.1411P　Clavius Crater Water　Pugacheva, S. G

文責　野間 光葉

ATLAS THE MOON
WHERE TO LOOK FOR THIS MONTH?

勉強会 *Short*

～ちょっと変わったメシエ天体たち～

どうも、次期宇科班長の泉です。個人的な話になりますが、先日天文宇宙検定を受けました。そこで知った、ちょっと変わったメシエ天体たちを紹介していこうと思います。

そもそも“メシエ天体”を知らない人の為に簡単に説明しておきます。メシエ天体とは昔メシエというコメットハンターが彗星を探していた際に、彗星に似た彗星では無い天体を、彗星と見間違えないようにメモしていた天体たちのことです。メシエ天体の通称は“メシエ”で、見やすい天体が多いです。

☆M15

M15 はペガスス座(秋)にある球状星団で、現在見つかっている球状星団の中で最も古い(約 120 億年前)です。恒星は歳をとるとより赤く、より大きくなります。M15 の中にはそのような赤っぽい恒星が多く、写真では分かりにくいですが、望遠鏡で見ると黄色っぽく見えます。
入れるのもそこまで難しくなく、見ごたえもあるので、興味のある方はぜひ見てみて下さい。

☆M13

M13 はヘルクレス座(春-夏)にある球状星団で、北天最大の球状星団です。M13 も M15 と同様で古くて見ごたえのある球状星団ですが、今回紹介するのは別の理由です。

1974 年にプエルトリコのアレシボ天文台から M13 に向けて、電波メッセージが送信されました。これは未知の異性文明に向けてメッセージを送り、異星人に地球文明を発見してもらう最初の試みでした。果たして宇宙人はいるのでしょうか？M13 も慣れれば難しくないのでオススメです。

☆M77

M77 はくじら座(秋)にある渦巻銀河です。M77 は活動銀河核を持つセイファート銀河です。活動銀河核では活発な星形成が起こっているか、超巨大ブラックホールを宿す系があると考えられています。

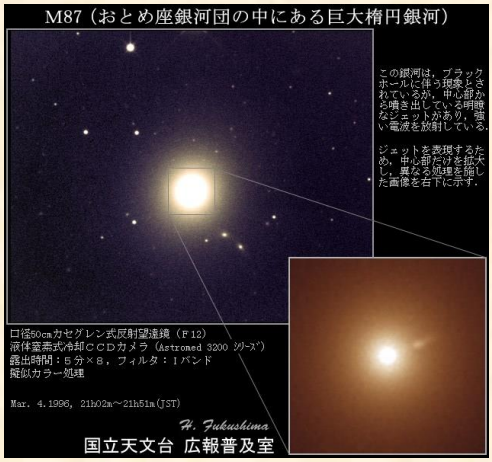
ただ、見た目は普通の渦巻銀河、しかも聞くところによるとクソメシエらしいので、見たい人は観測地と天気をしっかり選んでからにしましょう。

☆M66

M66 はしし座(春)にある渦巻銀河で、M66 銀河群を形成しています。M66 銀河群には 3 つの大きな銀河があり、Leo Triplett と呼ばれています。国立天文台のサイトには Leo Triplett の画像が無かったので、良ければ自分で調べてみて下さい。

☆M87

M87 はおとめ座(春)銀河団にある楕円銀河です。おとめ座銀河団には、天の川銀河近傍の銀河(局部銀河群)では見られない、非常に大きな銀河が多数存在し、M87 はその中の 1 つです。M87 にあるブラックホールは史上初めて撮影されたブラックホールとして話題になりました。



☆M67

M67 はかに座(春)にある散開星団です。一般的に散開星団は一千万年から一億年で星間雲に遭遇し、その潮汐力で壊されてしまうため、寿命は一千万年から一億年です。しかしながら M67 は年齢が 100 億歳と異例です。なぜ M67 はこんなに長く生き残っているのでしょうか。

一次期宇宙科学班長　　泉啓太

クレジット：国立天文台

物語の星

孤独のグ〇メ Season Winter　—2020 年 12 月　OBOG 投影

　すっかり夕暮れだ、今日最後の仕事は星カフェからの依頼か。洒落てるな〜、長年食器屋をやってて星カフェからの依頼は初めてだな。さあ、最後の仕事ちゃちゃっと仕上げてしまおう。

　時間や社会に囚われず、幸福に空腹を満たす時、束の間、彼は自分勝手になり、自由になる。誰にも邪魔されず、気を遣わずにものを食べるという孤高の行為。この行為こそが、現代人に平等に与えられた、最高の「癒やし」と言えるのである。

「こんばんは、約束していた井上です。星さん…ですか？」
「あ、こんばんは〜、お待ちしておりました。星です。本日はよろしくお願いします。」
「名刺頂戴します。改めて井上と申します。よろしくお願いします。」
　星志保さん…上から読んでも…下から読んでも…ほししほ…ふっ
「面白い名前だな、なんて思いましたでしょう？さ、こちらにかけてください。今お茶お持ちしますね。」
「あっいえ、そんなことは全然。　お気になさらずに」(まずい顔に出てしまっていたか…)w
「それで、今回は星カフェで使う食器の依頼ですよね。」
「はい。食器だけでなくコップやフォーク、ナイフなどもお願いしたいです！特にコップはコップ座を意識したくて…」
「コップ座ですか、その星座初めて聞きました。すみませんが…それってどのような星座でしょうか」
「まあ、そんな目立った星座じゃないですしね。じゃあせっかくですし店内のプラネタリウム使って説明しちゃいますね。まずは説明しやすいように方角から…井上さんの向かって正面が南。そして右が西、そして左が東です。コップ座は南東の空低くにいます。コップ座は 4 等星と 5 等星から形作られていて町中からは見ることすら厳しい星座です。星座線はこういう形で、星座絵出してみますね。見ての通り、今のようなコップの形ではなく、ギリシア時代に使われていたクラーテルという取手と土台がついた杯の形です。ワインと水を混ぜるために使われていたようでソフトドリンクだけでなくワインもこのコップで提供しようと思っています。あと、この杯はお酒の神様である、ディオニュソスが使っていた物としてギリシア神話で語られています。このように少し特殊な形のコップなので是非井上さんにお願いしたいと思いまして…」
「なるほど、詳しくありがとうございます。そうですね、これはなかなか見かけませんね…一度持ち帰ってまた改めて資料をお送りします。
んで、食器はどのような物をお考えですか？提供する料理が決まっていればそれに合う物をご提案できるかと思うのですが…」
「はい。一応、このようなメニューで出そうと考えていまして…」

流石星カフェ。料理は星座モチーフか…
うさぎ座の可愛らしいパフェにカシオペア座の形をしたチュロス…なるほど…なかなか美味しそうだな…これらに合う食器、料理を引き立てる食器…
そう考えると…腹が減ってくる...
「どうですかね、できればですけど星が散りばめられていたり、星空のようにキラキラした食器が欲しいんですけど…」
だめだ、空腹を意識した途端頭が回らなくなってしまった。いや、落ち着け。俺はただ腹が減っているだけなんだ。仕事を早く片付けてしまうことが最優先だ。
「あぁなるほど…そうですね、このカタログに載っているものがぴったりだと思います。じっくり選んでみてください。他にも今日お渡しした資料に載っていないもので星さんのイメージに合うものを探して、コップの資料と合わせてまた後日お送りします。それではこの後別件があるので。」
「あ、ああ、はい。わかりました〜。よろしくお願いします。」
（井上さんまだ仕事が入っていらっしゃるのかしら…？忙しい方だなあ…。どうせならもっと星座についてお話ししたかったんだけどなあ〜）

無理やり切り上げてしまったが、空腹には勝てない。
クンクン…どこからか…焼肉の…香りが…
この…匂い……無性に…腹が…減った…
さあ、店を探そう。
今日はいくつも仕事をこなしたから腹の減り具合も凄まじい。今の俺の腹はがっつり系を求めている。お、飲食店街に入ったぞ。定食田中…今は違う。バル、飲兵衛ではないからパス。どこだどこだ、今の俺の腹が満足する店は…!?
ん？焼肉ポラリス？焼肉、いいじゃないか。今まさに俺が求めている物だ。しかもポラリスは北極星。いい流れだ。よし、決めた。ここにしよう
「いらっしゃいませ！そちらの席にどうぞ！」
おっ！一人前用のロースター。まさに俺のための店なのかもしれない。さあ、どう攻めようか。まずはメニューを流し見して…
牛、羊、海鮮、サイドメニュー、ドリンク…ん？牛、羊、海鮮…え！？豚と鳥は！？…落ち着け、黒板や壁に貼られているメニューにあるかもしれない…
と思ったがどこもかしこも牛、ラム、海鮮。どういうこだわりなんだこの店は…。仕方がない。この店に身を任せてみるとしよう。
まず牛は焼肉には外せないよな〜。カルビ、ロース、タン、ハラミ、ホルモン、レバー…定番は揃っているな。うーん。そしたら…肩ロースとやはりカルビだ。羊は…ラムとマトン、ジンギスカン…なるほど…それじゃあラムも頼もう。で、海鮮はイカ、エビ、蟹、カジキ、とびうお、帆立…ずいぶんたくさんあるんだな…

「oh!!これ、蟹の甲羅？デスか！？」
　ん？向こうの人たち…外国の方か…
「そうそう！この蟹味噌焼き僕のお気に入りなんだよね〜！　きっと君も好きな味だと思うから食べてみて！」
「いただきます…hmm…soooo delicious!! 私コレ、すきです！」
　蟹味噌焼き…甲羅に入っているのか…そそられる。
　よし、決まりだ。)
「すみません」
「はーい」
「えっと、牛カルビと、肩ロース、ラムと、蟹味噌焼きをお願いします。あとご飯と味噌汁もいただけますか？」
「はい、大丈夫ですよ〜。お飲み物はいかがなさいますか？」
「あ、じゃあ烏龍茶で。」
「かしこまりました！」
　よし。
　にしても、どこを見ても豚と鳥がいない。ん？よく見るとメニューの横に何か書いてある…
　牛肩ロースの横に…「牡牛座の肩にはすばる星団がある。すばるはたくさんの星が群れている散開星団で、すばるという名前は『集まって一つになる』という意味の言葉から来ている。」
　へえ〜、そうなのか。ちょっとした勉強になるな。すばるの写真も丁寧に添えちゃって。店名だけでなくこういうところも星に絡めているんだな。面白い。

「お待たせしました〜。」
　きたきた。おお〜こう一度にテーブルに並んだ姿を見ると…
　なんだかすごいことになっちゃったぞ。
「まずは牛から焼いて、その後にラムを、蟹は食べる少し前に火にかけることをお勧めします〜」
「わかりました。ありがとうございます。」
　では早速、牛から焼いて行こう。
　ああ、いい音だ。この音と香りだけで飯が食えてしまいそうだ。
焼ける前にタレも準備しておかねば。えーと、タレは…黄金のアルデバランのタレ？なんだそりゃ。これもまた星に関係することなんだろうか。
　うーん。気になる。ちょっと聞いてみよう。
「すみません」
「はいー！どうされました？」
「この…アルデバランというのはなんですか？」
「アルデバランは牡牛座の一等星の名前なんですよ！オレンジ色のとっても明るい星ですよ〜。あ、ち

ょうど牡牛座の写真があったので…この星です！」
「なるほど、オレンジの星…だから黄金ということなんですね…ありがとうございます。」
「いえいえ！タレは当店自慢のオリジナルのタレで美味しいですよ～是非一緒に食べてみてください！」
　やはり星に関係していた。しかもこの店オリジナル。いいじゃないか。

　さあ、カルビがいい具合に焼けた。タレをつけて…うひょー、この照り、本当にアルデバランのような輝きを放っているじゃないか。いただきます。
　うん、これだ、the 焼肉という味と食べ応え。間違いなく飯と合う。
　お、肩ロースも焼けてきたな。おお～肉の甘みと旨味を両方感じられる。期待を裏切らない味だ。肩ロースにあるすばるというのは集まって一つになるって意味だったな。この肉たちと白米は俺のもとで集まって一つ上の格別なものとなっているのだ……なんちゃって。
　じゃあお次はラムでも焼き始めるか。
「お客さん、ラム焼いてあげますよ！焼いている間、小話に付き合ってくださいな」
　お、せっかくだし焼いてもらおう。ん？星座盤を手に持っている？
「あ、はい。お願いします。」
「ラム肉って～羊じゃないですか～、星座に牡羊座ってあるのご存知ですか？」
「はい、確か誕生星座のひとつですよね」
「おっ！そうですそうです！この星座盤では、西の空低くにいます。誕生星座になっていて、よく知られている星座なんですけど、意外と明るい星はなくってあまり目立たないんですよ。星座線は端っこにカーブがついている直線で、カーブのところが羊の頭になっています。で、モデルとなっている羊はギリシャ神話の中の黄金の毛を持ち、空を飛び、人の言葉も話すことができる羊だそうですよ～　はい、いい感じに焼けました！どうぞ召し上がってください！」
「へえ～！そうなんですね。初めて知りました。ありがとうございます。いただきます。」
　おお、臭みが全然ない、その上焼き具合も絶妙だ…これまた飯泥棒だ。
　うーん、ご飯二杯目頼むか。えっと、店員さんは…
　遠くの席で話し込んでるな、また星座盤を手にもって…ふっ、さすが、焼肉ポラリス。
少ししてから追加のご飯は頼むか。
（さあ、ご飯の補充もすんだし、いよいよ蟹味噌焼きにいきますか。蟹まるまる一匹。まて、焼き時間はどうなんだ。うーん。こういう時には店員に聞くのが一番。）
「すみません」
「はい！」
「この蟹味噌焼きってどう焼けば…」
「ああ！任せてください！では、また小咄でも…どうです？？」
　出た、星座盤。せっかくだしまた聞いてみよう。
「ぜひお願いします」

「ふふ、じゃあ、今お客さんが焼いている蟹！これも星座にあるんですよ～」
「え～と、確かこれも誕生星座の一つ、でしたよね」
「そうですそうです！6 月 22 日から 7 月 22 日生まれの誕生星座です！実は私の誕生星座、蟹座なんですよ～！んで！蟹座は、この星座盤では南東の空にいますね～。こりゃまた暗い星ばかりであまり目立たない星座ですね～。星座自体はあんまり目立たないんですけど、蟹の甲羅の部分をぐーーーっと望遠鏡とかで見ると、星がたくさん集まった星団があるんですよ！これは、プレセペ星団といって、蟹座のちょうど甲羅の真ん中にあるせいで、この星団のことを蟹味噌と呼ぶ人が多いんですよ～。」
　なるほど。じゃあ今焼いてもらっているこれはプレセペ焼き…
「蟹座のモデルは、神話の中でヘラクレスに命を狙われた友人のピンチを救うためにヘラクレスに対して勇敢に立ち向かったけど、あっけなくやられてしまい、さらに友人もやられてしまったという蟹の怪物カルキノスです。友人を守るために勇気ある行動をしたのにやられてしまったカルキノスをかわいそうだと思った神様が、天にあげて、蟹座になったというお話しです！おっ、ちょうどいいところで焼けましたよ～どうぞ！」
「ありがとうございます。」
　う～～ん、良いクツクツ具合。
　まろやかで深いコク、ほんのりと甘さも感じられて良い。少し蟹の身が入っているのも嬉しい。
　飲兵衛はこれはいい酒のつまみというだろう。でも俺は、これを…飯に乗っける！
　う～～ん。たまらん。
　ちょっと醤油を足してみて…
　おっ！醤油の旨味が蟹の旨味と和音を奏でている。蟹味噌はミとソとすると醤油はドだ。ドーミーソー。誰もが心地よく感じる音、誰もがうまいと思う味だ。
　あっという間になくなってしまった。ご馳走様でした。

「ありがとうございました！」
「ご馳走様でした。」
　いやあ、大満足大満足。店員の星座の話もよかったな。今空には何か見えるかな？
おっ、あの三つ並んだ星は…オリオン座だ。
　神話はよくわからないが、この形、なんとなく好きだ。今度、プラネタリウムにでも行ってみるか。）

あとがき

ちょうど一年前に書いた、初解説の投影です。松重さんが美味しそうにご飯を食べる某ドラマを一気見していた時期で、これでプラネ書きたいな～と思った結果生まれた投影です。

どうやって食事と星座を結びつけるかを考えるのが大変でした。ちょうど、食べられそうな星座が多く見えている季節だったので、助かりましたね。

六郎さんにしっかりと食レポをしてもらうために、ラム肉を買って食べたり、海鮮屋に蟹味噌甲羅焼きを食べに行ったりしました。蟹味噌が本当にご飯と相性抜群で美味しくて……ああ…思い出したら食べたくなってきた……。

読んでもらったらわかると思うのですが、この投影、演者は 2 人なのに登場人物が 5 人というおったまげ投影なんですよ。ペアの子が後輩で、流石に後輩に複数の役をお願いするのは酷だなと思ったので、1 人で 4 役演じることになりました。一人一人演じ分けるのがかなり大変でしたけど、演技をする上で邪魔になる「恥」というものがどこかに吹っ飛びましたね。おかげでこの投影以降、さまざまな役を演じることが楽しくなりました。

ペアは某ドラマを知らなかったのですが、「一話でもいいから見て頑張って演技して！」という無茶振りに応えてくれました。心からありがとう…。

―ばん

▲12 月 8 日　2 時頃の星空と登場した星座

月刊嶺上新星　2021 年 12 月号
制作：神戸大学　天文研究会

月刊

嶺上新星

2021年12月号

制作：神戸大学　天文研究会

▲広告募集中！　公式班・非公式班を問いません。
詳細は嶺上新星編集部までお問い合わせください。